



50周年記念誌



社会福祉法人 ますみ会
特別養護老人ホーム ますみ荘

社会福祉法人 ますみ会

基本理念

運営方針…… 人権を尊び

人の人生を思いやり

慈愛と奉仕の精神を貫く

誠実・努力・健康

私の誓い…… 自らの仕事に誇りを持ち

公明 平等 明るく

温かい施設をつくります



ますみ会の社章(マーク)『桜』について

創立者故 赤木前理事長の郷里や先祖を想う気持ちが込められた社章です。

赤木前理事長は 1200 年以上にわたり代々続く 社家(神職)の生まれであり、出処である和気郡和気町に鎮座する和気神社の社紋、『山桜』がモチーフになっています。

この社章には、桜の花言葉である「精神美」「純潔」といった心構えが込められ、また、門出の象徴である桜は新しい挑戦を祝う意味を持つことから、組織や職員一人ひとりの前向きな挑戦を願う思いが込められています。



社会福祉法人ますみ会
理事長

小出 尚志

創立50周年にあたって

このたび社会福祉法人ますみ会と特別養護老人ホーム（特養）ますみ荘は創立50周年を迎えました。ますみ荘は、創設以来、常に高齢者福祉と介護の最前線に立ってきました。この間、繰り返し優良施設の評価を受け、常陸宮ご夫妻のご来臨や天皇陛下からの御下賜金の栄にも浴しました。この輝かしい歴史は、故・赤木和彦・初代理事長の強いリーダーシップと職員の献身的な努力の賜物であり、また関係行政機関をはじめ、ボランティアや地域の皆様のご支援のお陰であります。あらためて関係各位に厚く御礼を申し上げます。

これからのますみ荘を待ち受けるのは未曾有の超高齢社会と労働人口の減少時代です。世界最速で世界一の高齢社会を迎えた我が国の介護ニーズは大きく膨らみ、持続可能なサービス提供体制を模索してきました。高齢者介護を社会全体で支え合う仕組みとして2000年に始まった介護保険制度はドラスティックな改革でしたが、異業種参入も拡大し利用者の獲得競争が進みました。特養は入所要件を要介護3以上と厳格化されて競争力はいっそう低下し、深刻な介護人材不足もあり、厳しい経営環境にあります。

しかし、時代は移り制度が変わろうともお年寄りの幸せを願う気持ちは変わらず、老いて心身を病みながらも日々を生きぬいてこられたお年寄りには尊敬と励ましがが必要です。私たちは慈愛・奉仕・誠実・平等の初心を忘れず、不易流行の精神をもって次の時代に挑戦してまいります。



特別養護老人ホームますみ荘
施設長

小森 弥彦

創立50周年を迎えて

倉敷市で最初の特別養護老人ホームとして昭和48年に開設し、半世紀にわたり歴史を刻んで参りました。この記念すべき50年という節目を迎えることができましたのも、ひとえに関係する多くの皆様のご指導とご支援の賜物と、ここに心より深く感謝を申し上げます。

開設当時から受け継がれる当施設の特徴としましては、粘り強く地道に励むということに尽きるのではないかと思います。50年の間には幾つもの大きなうねりがありました。「介護」という言葉が使われる前から試行錯誤を繰り返し、介護の基本を確立すべく日々取り組み、それを深化させながら受け継ぎ現在に至ります。それはチャレンジの連続でもあったと思います。社会やご利用者の状態が変化の中で、人に寄り添いながら時代に合った介護方法や機器の導入等に積極的に取り組んで来た歴史があります。

現在、急激な社会構造の変化の中で、あらゆる変化が求められる時代になって来ました。私たちは諸先輩方が築き上げてこられた歴史と思い大切に、時代の求めに応え励むことが大きな使命であると考えています。地域福祉の向上の為、ご利用者やご家族、職員、関係する皆様の思いを大切に、これからも新たな歴史を刻んで参ります。



岡山県議会議員
ますみ会 理事

渡辺 英 気

創立50周年 祝辞

社会福祉法人ますみ会並び特別養護老人ホームますみ荘50周年、おめでとうございます。

これまで倉敷市の地域の介護・福祉の中心的な施設として、小出理事長を始め、職員の皆様の日頃のご努力に感謝と敬意を表します。

創立者 赤木和彦 前理事長から、理事にご推薦をいただき以来、出来る限り多方面で事業推進に協力をさせていただきました。特に老朽化した建物の3期に渡る建て替え時には、赤木前理事長自ら私の自宅にお見えになり、何度も様々な御相談をいただき、岡山県への要望にも同行するなどの対応を全身全霊でさせていただいたことを懐かしく思い出します。

今、少子高齢化社会の新しい時代を迎え、医療・介護・福祉を取り巻く環境は厳しくなっています。そのような中であっても、小出理事長を筆頭に職員の皆様のマンパワーで、倉敷の介護・福祉のリーダーとして、地域や介護が必要な方々に寄り添いながら、ご尽力をいただけることを祈念いたします。



倉敷市議会議員
ますみ会 理事

三村 英 世

創立50周年 祝辞

社会福祉法人ますみ会並びに特別養護老人ホームますみ荘が設立50周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。倉敷市初の特別養護老人ホームを設立してから50年のますみ会の輝かしい歴史を支えてこられました多くの関係者の皆様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

50年前は、日本が高度経済成長期で核家族が増えた時代でした。その後は、バブル経済が崩壊して30年間続いた長く厳しい時代に、予想を超えて少子高齢化と人口減少が進行し、国の土台が大きく変化いたしました。また自然災害や感染症も重要なテーマになりました。このような山積する未知の課題に、市民の英知を結集した新しい発想で解決していく必要性を強く感じています。

ますみ会は、外国人の雇用、介護ロボットの導入、そして地域貢献活動など、時代を先取りした取り組みを積極的におこなっています。今後とも入所者様へのサービス向上はもとより、地域福祉に幅広く貢献される施設としてその存在感と信頼感を更に高められることと確信しています。

最後に、ますみ会並びにますみ荘の益々のご発展と、小出尚志理事長をはじめ関係者の皆様のご健勝ご多幸を心よりご祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

沿革

昭和47年	11月	社会福祉法人 ますみ会 設立申請
昭和48年	1月	社会福祉法人 ますみ会 許可（厚・社67号）
	11月	事業開始（定員70名）
昭和51年	4月	新館落成・入所者定員110名に
昭和53年	10月	岡山県寝たきり老人短期保護事業受託契約
昭和56年	4月	在宅寝たきり老人短期保護事業契約 （真備町、船穂町、倉敷市、清音村、山手村）
昭和57年	4月	倉敷市寝たきり老人入浴援護事業委託契約
昭和58年	11月	ますみ荘家族会結成
昭和59年	6月	新館改築・定員132名に増床
昭和60年	2月	ますみ会健康作り教室開始
昭和62年	9月	機能訓練事業開始（老人保健法）
	10月	認知症専用室設置



昭和48年11月



昭和51年4月



昭和59年6月

平成元年	10月	入所者処遇優良施設認定（県民生労働部長）
平成2年	1月	家庭介護奉仕員派遣事業開始
	8月	入所者処遇等優良施設認定（岡山県知事）
平成5年	10月	常陸宮殿下ご夫妻おなり
	12月	介護福祉士養成実習室設置
	12月	ボランティア教室開設
平成6年	8月	本館2階食堂改装
平成7年	4月	ケアプランによる個別ケア実施
	12月	天皇陛下より御下賜金拝受（優良施設として）
平成10年	4月	移乗用介護リフト導入



平成15年10月

沿革

平成11年	2月	本館増築（厨房、食堂、浴場、洗濯場）
	10月	居宅介護支援事業開始 （ますみ荘介護サポートセンター）
平成12年	4月	介護保険指定事業者指定 （介護福祉施設、併設短期入所、訪問介護）
	4月	介護記録の完全電子化導入
平成13年	3月	ますみ会「苦情等解決委員会」設置
	8月	ますみ荘建て替え工事着工
平成14年	3月	第1期建て替え工事完了（併用開始）
	12月	第2期建て替え工事完了（併用開始）
平成15年	2月	ますみ会「評議員会」設置
	8月	第3期建て替え工事完了
	9月	短期入所定員8名事業変更
	10月	建て替え工事竣工・式典



平成18年	4月	介護予防ケアマネジメント業務委託
平成21年	11月	全国老人福祉施設協議会 フォトコンテスト入賞
平成22年	11月	大規模修繕工事（外壁）
令和元年	9月	大規模修繕工事（空調機更新）
令和2年	7月	外国人介護士受け入れ（奨学金貸与事業）開始
令和5年	5月	大規模修繕工事（ナースコール設備更新）
	5月	介護ロボット・ICT 機器本格導入



令和5年11月24日

利用者状況

◎年齢調査及び要介護度

平均年齢を比べても、10歳以上の差があり、高齢化が進んでいることがわかる。要介護度は介護保険がスタートしてからできたものであり、それまではなかった。平成16年3月の平均要介護度は4.13であったが、令和5年4月の平均要介護度は4.23であり、重度化が進んでいる。

S53. 3. 31

年齢	～65		～70		～75		～80		～85		～90		～95		～100		100～		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
要介護度	2	4	4	9	5	8	10	25	7	20	3	16	0	1	0	1	0	0	115人
	6		13		13		35		27		19		1		1		0		
計	1.7%	3.5%	3.5%	7.8%	4.3%	7.0%	8.7%	21.7%	6.1%	17.4%	2.6%	13.9%	0.0%	0.9%	0.0%	0.9%	0.0%	0.0%	

男性31人（平均年齢75.9歳） 女性84人（平均年齢78.3歳） 全平均77歳6ヶ月

R5. 6. 30

年齢	65歳未満		70歳未満		75歳未満		80歳未満		85歳未満		90歳未満		95歳未満		100歳未満		100歳～		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
1																			0	0.0%
2													1		1				2	1.6%
3					1	1	1	1	0	0	1	3	1	6		4			19	15.6%
4					1	1	4	2	1	6	2	12	3	12		4		2	50	41.0%
5						1	0	4	4	10	1	12	1	9	1	5		3	51	41.8%
計			0	0	2	3	5	7	5	16	4	27	6	27	2	13	0	5	122	
			0.0%	0.0%	1.7%	2.6%	4.3%	6.0%	4.3%	13.8%	3.4%	23.3%	5.2%	23.3%	1.7%	11.2%		4.3%	平均要介護度	
	最高齢109歳6ヶ月																		4.23	
	男性24人(平均84.4歳)						女性98人(平均88.8歳)						全平均87歳9ヶ月							

◎身体状況

食事	自立摂取者が減少し、現在は介助が必要な方や経管栄養など医療依存度の高い方が増えている。
入浴	一般浴と寝たきり対応のストレッチャー浴しかない時代は、浴槽をまたぐことが出来ない方はストレッチャー浴で入浴するしかなかったが、現在は姿勢保持が可能であれば、座位姿勢での入浴も可能となり、身体状況に応じた入浴方法が可能となっている。
移動	車椅子が普及していない時は、ベッド上での生活にならざるを得ない状態だったが、現在では座位保持が難しい場合でもリクライニング型の車椅子を使用することにより、生活範囲を広げることができている。
排泄	昔は尿器や差し込み便器が活躍し、尿便意不明の方はおしめ使用があたりまえだったが、座位になることで排泄が促されることもあり、現在はおしめ使用者でもトイレ誘導を試みている。

S53. 3. 31

食事			入浴			移動			排泄		
自立	一部介助	全介助	自立	一部介助	全介助	一人で又は手すり で歩ける	歩行器 使用	常に ねたきり	自立	尿器使用 及び夜間 おしめ使用	常時 おしめ 使用
41	61	13	11	39	65	45	19	51	48	15	52
35.7%	53.0%	11.3%	9.6%	33.9%	56.5%	39.1%	16.5%	44.3%	41.7%	13.0%	45.2%

R5. 6. 30

食事				入浴			
自立	見守り	半介助	全介助	個人浴槽	チェアーインバス	ストレッチャー浴	
8	24	18	72	2	26	94	
6.6%	19.7%	14.8%	59.0%	1.6%	21.3%	77.0%	

移動				排泄				
自立	杖・歩行器 手引き介助	車椅子		ストレッチャー リクライニング等	トイレ自力	Pトイレ自力 尿器自力	トイレ介助 夜間おしめ等	おしめ使用 随時含む
		自力	介助					
1	3	10	24	84	0	3	23	96
0.8%	2.5%	8.2%	19.7%	68.9%	0.0%	2.5%	18.9%	78.7%

◎在籍期間調査

20年前と比べ、在籍期間は短くなっている。入所利用者の重度化傾向は進んでいると言える。

H16. 3. 1

期間	～1年	～2年	～5年	～10年	～15年	～20年	～25年	25年以上	合計	平均
男性	3	8	7	4		2			24	4年0ヶ月
女性	30	13	36	20	3	2	4		108	3年8ヶ月
合計	29.5%	18.8%	38.4%	21.4%	2.7%	3.6%	3.6%	0.0%		最長22.9年

R5. 6. 30

最長 19年4ヶ月

期間	～1年	～2年	～5年	～10年	～15年	～20年	～25年	25年以上	合計	平均
男性	8	10	4	1		1			24	2年8ヶ月
女性	23	27	20	22	5	1			98	3年7ヶ月
合計	27.7%	33.0%	21.4%	20.5%	4.5%	1.8%	0.0%	0.0%		最長19.4年

◎入所直前の居所

昔は在宅以外の居所は病院がほとんどであり、治療が終わって行き場がなく、いわゆる社会的入院をしている場合が多かった。現在は老人保健施設をはじめとする様々な施設で入所を待つケースが多くなっている。

S53. 3. 31

人数	在宅			
	子・親族同居	老夫婦	独居	その他
	42	8	15	1

R5. 6. 30

人数	在宅	在宅以外						合計	
		各種病院	グループホーム	特定介護施設	老健	特養	介護保険以外	入所者合計122	
	19	21	8	18	40	16	0	在宅 19	在宅以外 103

ボランティア関係

◎年度別ボランティア受け入れ状況

年度	受け入れ人数
平成25年	976
平成26年	1175
平成27年	1192
平成28年	1199
平成29年	1376
平成30年	1249
令和元年	1024
令和2年	167*
令和3年	139
令和4年	179

※コロナ禍となりボランティア受け入れを制限する

◎登録ボランティア(令和5年度)

団体	22
個人	7

地域貢献活動

平成29年の改正社会福祉法にて、社会福祉法人に「地域貢献」(地域における公益的な取組)が義務付けられた。法人の性格上、それまでも福祉事業を通じて社会や地域福祉に貢献してきた経緯があるが、改めて「地域貢献」について考える機会となった。

長年継続してきた、「ボランティア養成や受け入れ」「実習生や研修生の受け入れ」「地域の幼児・児童・生徒など学生との交流」「介護予防の取り組み」「講師派遣」「施設設備等の貸与」「生活困窮者への費用負担の軽減」等をより深化させることに加え、フードロスや日用品ロスの軽減、地域のつながりの場の創出(福祉ニーズを拾う場)を目的に「互近助パントリー事業」を地域の社会福祉法人や企業、住民団体と共に令和4年度より定期開催。時代背景を踏まえた取り組みとして、地域の福祉イベントになりつつある。

春



夏



秋



冬



創設50周年を祝して

ますみ会 理事

平井 久嗣

大正木材(株) 代表取締役会長
中島地区民生委員児童委員協議会 元会長

社会福祉法人ますみ会が、地域に愛される施設として着実な歩みをつづけてこられ、ここに半世紀の50年を迎えられましたことは、誠に感慨無量であり、お慶びにたえません。

「心と心でおつきあい」をスローガンに地域のつながりを大切にされ、中島地区社会福祉協議会、中島小地域ケア会議、生活支援サービス中島ボランティア「りんりん」(高齢者及び独居老人対象)等の地域の福祉活動にも積極的にご参加される上、児童福祉等の学校関係にもご支援をなされ、特に5年前に中島小学校50周年の際には物心両面にわたりご支援を賜りましたことを、地域住民の一人として感謝申し上げる次第です。

50周年を節目に、地域に愛され親しまれる『社会福祉法人ますみ会』として、ますますのご隆盛をご祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

創立50周年に寄せて

ますみ会 理事

武部 登志子

(福)中島福祉会 理事長
中島保育園 園長

社会福祉法人ますみ会の皆様には、この度、創立50周年という大きな節目を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

昨今のコロナ禍の影響で社会環境の変化が大きくなり、世界各国での紛争により、諸物価格の高騰等で、生活の見直しを考える必要が出てきました。そんな時、声をかけていただき、ますみ荘互近助パントリー「食・生活の支援」と「地域のつながり作り」を目的に無償でお渡しする活動に参加させていただきました。回を重ねる度に参加者も増え、協賛者の方々の魅力ある内容に会場は笑顔いっぱい、にぎやかムード、この素敵な地域貢献事業に微力ではありますが当園も関わらせていただけることをうれしく感じております。

保育園の子ども達と、ますみ会の利用者様との交流が始まって39年目を迎えました。コロナ禍で3年間交流が出来ませんでしたが、今年度から5歳児とのふれあい遊びを通して交流を持たせていただいております。

ますみ荘の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

50周年によせて

ますみ会 監事

桑 鶴 義 人

(医)桑鶴歯科医院 理事長

創立 50 周年、おめでとうございます。

40 数年前、赤木前理事長から「入所者のお口の健康を診てあげてほしい」とのお話がありました。当時は高齢者の口腔管理、ましてや歯科の訪問診療などがあまり関心をもたれていない時代で、先生の先見の明とお年寄りに対する思いやりに心を打たれ、これまで微力ながらお手伝いをさせていただいてまいりました。

ますみ会の基本理念の「人権を尊び、人の人生を思いやり、慈愛と奉仕の精神を貫く」がこの 50 年の長きにわたり、小出理事長、小森施設長はじめ職員の皆様に受け継がれ、こころあたたかい介護がなされています。

さらに高齢化社会が進む日本、ますみ荘が地域の介護サービスの拠点としてさらに発展し、高齢者福祉のリーダーとしてご活躍されますことを祈念いたします。

ますみ荘創立50年によせて

ますみ会 監事

長 鋪 健

特別養護老人ホームますみ荘 前施設長

創立 50 年おめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。

私がますみ荘に入職したのが平成 4 年、それ以来現在に至るまで、現職の監事として関わりを持たれたことを誇りに思っています。老人福祉法から介護保険法になり、措置から契約に、処遇からサービスに、大きく変化しました。その後、施設の建て替え、最近になり介護職員の不足、コロナ禍、水道代・電気代の高騰にも耐え、業務に努める職員の姿に心から敬意を表します。そこには、ご利用者様が人として当たり前な生活をしてほしいと、サービスの向上を怠らなかった職員の信念があります。

ある施設長の「ますみ荘の職員の資質にはどんなに努力しても追いつきませんでした」。この言葉は、広報誌「ますみ荘だより」のコピーである「心と心でおつきあい」そのものです。

50周年に寄せて

特別養護老人ホームますみ荘 事務長 吉田 一成

ますみ荘は、今年で創立 50 周年を迎えました。これは偏に諸先輩方が築き上げてこられた賜物であり敬意を表します。時代の流れから、アナログからデジタル化に今ではロボットまで活用する時代に大きく変化しました。当荘においても、ICT ロボットを導入し、最先端の技術を駆使しながら、利用者の皆様が生活の場として明るく楽しく生活できるよう支援をしています。利用者は勿論、利用者家族の皆様にも認められ、地域の皆様に愛され、そして地域社会に必要不可欠な介護施設として、これからも職員一丸となって邁進して行きます。次世代に繋ぐべく橋渡しとして、スタッフ一同切磋琢磨し、60 周年に向けて更に飛躍できるように頑張っています。

特別養護老人ホームますみ荘 統括部長 佐川 幸司

私は介護実習からますみ荘とご縁があり、そのまま 28 年間、ますみ荘に身を置かせていただいています。私がますみ荘に留まる理由は二つ、ひとつは「利用者を第一に」という理念のもと、諸先輩方が培って来られた「ますみ荘介護」のすばらしさ。もうひとつは、ひたむきにコツコツと業務に取り組む現在のスタッフの姿に、日々自分自身が励まされていることです。介護を取り巻く環境の変化は日に日にスピードを増しています。その中で私の果たすべき役割は、ここまで育てて頂いた恩義を忘れず、次世代に繋がる道筋をつくることだと思っています。ますみ荘の更なる飛躍に向け、日々研鑽してまいります。

特別養護老人ホームますみ荘 生活相談室長 阿部 恵

小学6年生のときに、クラスの皆でますみ荘を訪問し、入所者の皆様に温かく迎えて下さったこと、今でも鮮明に覚えています。私たちが帰るときに、目の不自由な一人の女性が手を握り、涙を流しながら「ありがとう、ありがとう」と何度も何度も言ってくださいました。あの時の貴重な体験が、将来介護の道に進むきっかけになったのだと思います。

あれから40年あまりが過ぎ、ますみ荘で培った経験を活かし、今では介護の仕事の魅力伝える側に立っています。核家族化が進み高齢者と接したことのない子供たちも増えています。一人でも多くの子供たちに、介護の仕事っていいなと思ってもらえるように、これからも魅力発信に努めていきます。

特別養護老人ホームますみ荘 介護室長 原 純子

昭和63年、ますみ荘創立15周年の年に、私は『寮母』として高齢者福祉の第1歩を歩みだしました。故赤木和彦名誉会長の「明るく、やさしく、公平に、献身的奉仕の心と、誇り高き理想を求めて、日夜努力を重ねる」との言葉を指針に日々研鑽しています。介護を取り巻く環境は、措置制度から介護保険制度へ、高齢社会から、超高齢社会へと大きく変化しています。ただ、日々介護を行う中のご利用者様から多くの笑顔や「ありがとう」の言葉を頂戴することは変わりません。私たちの支援がお役に立っていると感じる瞬間は、介護士冥利に尽きます。この楽しさとやりがいを広く知って頂けるよう次世代の介護士育成にも尽力してまいります。



特別養護老人ホームますみ荘 看護師長 谷口 良子

入職当時を振り返ってみますと、運動会・盆おどりなど地域住民の皆様に支えられてとても楽しい経験をさせて頂きました。日常とより違った利用者様の笑顔が思い出されます。

ここ数年新型コロナウイルス対策で制限の多い毎日でした。しかしながらこの5月8日に「2類相当」から「5類」に変更され少しずつ以前のような平穏を取り戻しつつあります。

今後も利用者様が健康で過ごせる様努めてまいりたいと思います。

特別養護老人ホームますみ荘 給食室長 山下 光

「ますみ荘のご飯は美味しいね」

食事を作る私たちにとって、利用者さんにそう言っていただけることが何よりの励みになります。

ますみ荘が始まって以来50年、“家庭のような温かみのある食事を”をコンセプトに、毎日休むことなく食事を作り続けてきました。調理する人が代わっても、献立を立てる人が代わっても、その想いは確実に受け継がれています。

近年の物価の高騰から、食材料費も上がり、給食経営は正直厳しいところはあります。それでも私たちはこれからも、利用者さんに喜んでいただける食事を作り、食を通して、ますみ荘を盛り立てていきたいです。

ますみ荘介護サポートセンター 管理者 草地 里美

介護保険が始まった翌年にますみ荘へ入職し、現在は在宅部門のケアマネジャーをさせて頂いております。今日まで沢山の方々と出会い、そして様々な思い出が浮かびます。

この数年新型コロナウイルス感染症の流行で高齢者を取り巻く環境は大きく変わったと感じています。今は当初に比べて徐々に制限が緩和され、明るい話題も増えてきましたが、高齢者や支援する職員にとって、感染症予防は欠かせません。オンライン環境は普及しましたが、「人と直接会って話す」、「外に出て世間や季節を直接感じる」ことには敵いません。ご利用者やご家族が望む生活に少しでも近づけるよう、微力ですがこれからもお手伝いさせて頂ければと思います。



歴代会長さんの思いを引き継ぎ50周年の節目に当たる年にご挨拶の機会をいただくことに感謝申し上げます。

母が入所して以来、誕生日の写真も早や15枚。今年は「百寿」を迎え二重のお祝いになりました。体調不良の時には協力病院と連携を図り、その都度報告を電話でいただいています。その電話でいつも感心するのは、はじめに「急な要件ではありませんが」と言葉を添える心遣いです。

また、介護業務だけでも大変な中で、四季を感じさせる行事や、地元根差した地域貢献事業など、こういったスタッフ皆さんの努力には、心から感謝しています。

社会の情勢は刻一刻と変化しています。家族会として、ますみ荘の今後の発展に協力してまいります。

2階 利用者 畑中 忠廣

ますみ荘50周年おめでとうございます。

僕がますみ荘でお世話になって7年目を迎えようとしています。ますみ荘はなんと言っても、楽しいよ。食事美味しいし、リハビリも楽しみながら出来る。職員さんもやさしくて言う事なし。これからもお世話になりますが、どうぞよろしくお願いします。

3階 利用者 山川 辰子

ますみ荘50周年おめでとうございます。私がますみ荘で生活して1年10カ月程ですが、施設の中はいつもきれいで快適に過ごせています。食事美味しいし、リハビリや季節の行事も工夫していて、楽しませてもらっています。職員さんもやさしく、感謝しています。ありがとうございます。これからも、今まで通りゆったりと過ごしたいのでよろしくお願いします。

4階 利用者 河端 智俣

ますみ荘50周年おめでとうございます。はや50年を迎えるんですね。ますみ荘のことはよく知っていました。8月、駐車場で納涼盆踊りをされていきましたよね。地域の方々とも交流され、あたたかみのある施設と思っていました。私がお世話になってまだ1カ月も経ちませんが、ますみ荘にいる方はみんなやさしいです。大好きなリハビリを頑張っているのですが、ますみ荘のリハビリはすごいですよ！

私は氷川きよしのファンですが、リハビリ室には氷川きよしの曲が流れ、ポスターが貼ってあり、リハビリに行きたいと気持ちを盛り上げてくれるんです！これからもお世話になりますが、よろしくお願いします。

創立者 赤木和彦 名誉会長を偲ぶ

昭和2年12月17日、岡山県赤磐郡熊山町殿谷（現赤磐市）に生まれ、和気郡和気町藤野で幼少期を過ごされました。岡山大学医学部を卒業後、玉野市民病院に勤務、そして香川県直島町医を経て、昭和43年に現在の地に医療法人誠和会 倉敷記念病院を設立、昭和48年に社会福祉法人ますみ会 特別養護老人ホームますみ荘を設立。生涯、医療と福祉に身を投じ、令和4年3月23日に享年96歳で静かにその生涯を閉じられました。

30周年記念誌 ～思い出すること～ より

昭和12年2月の寒い朝方、美しく、やさしかった母は肺炎にて死亡した。32才。私は8才、妹6才、弟4才。2～3年後、肺炎の特効剤サルファ剤、次にペニシリンが出来た。私は医者になろうと思った。でも、頭が悪く、体のひよわな私を皆嘲笑した。私は今でも信じている。神の助けがあったと。人生の節目節目に必ず良い方に、迷ったとき必ず良い方に導いてくれた。私には神がついていてくれる。（中略）

母亡きあと三人の兄妹を育ててくれた女宮司、祖母ますみ。私らの学資を日々行商に求めて、昭和45年3月死亡。枕元に一度も見ることの出来なかった記念病院・祝完成の新聞記事の切り抜きがあった。二人とも看護らしき事を少しもしてやれず、今も心が痛み、悔いても悔い切れない。

私は名医になろうと思ったことは一度もない。良医になり、患者と対等に何でも相談し合える、信頼され、共に病と闘っていく医師でありたい。公平平等、深夜休日を忘れ、ひたすらに努力した。短い、二度とめぐり来ぬ一生に悔いのない様、心がけたつもりである。45年間直島からの患者さん、入院、外来絶えることなく続いて、私の大きな励みになっている。悲しかったこと、嬉しかったこと、困ったこと、もうそれは今となってはほろ苦い、何か懐かしい事のように思われる。それにつけても、故里の近所の人たちが温かい心で色々と助けてくれたこといつまでも心に残っている。（後略）

2004年3月31日

赤木 和彦

新型コロナウイルス感染症の関係にて延期となっていました「お別れの会」を、一周忌の節目として令和5年3月23日に医療法人誠和会とともに関係者のみで執り行いました。



ますみ会設立後、平成29年まで43年間にわたり理事長職を務められました。退任後も名誉会長として、「慈愛・奉仕・誠実・平等」の精神を貫き、法人や施設のこと、ご利用者や地域の方々、そして職員のことを常に気に掛け、いつも感謝の言葉を口にされていました。

倉敷中島のこの地で一から築いてきた当ますみ会を、私たちは引き継ぐ責務があります。名誉会長の遺志を胸に刻み、これからもご利用者の為、地域の為に職員一同、精進して参ります。赤木名誉会長、長きにわたりありがとうございました。いつまでも私たちをお見守り下さい。





発行日 令和6年1月
発行所 〒710-0803
岡山県倉敷市中島837番地5
社会福祉法人 ますみ会
特別養護老人ホーム ますみ荘
TEL (086)465-6565
FAX (086)465-8826
印刷 ササベ印刷株式会社